



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

日本学術会議主催 学術フォーラム  
持続可能な社会を創り担うための  
教育と学習のチャレンジ

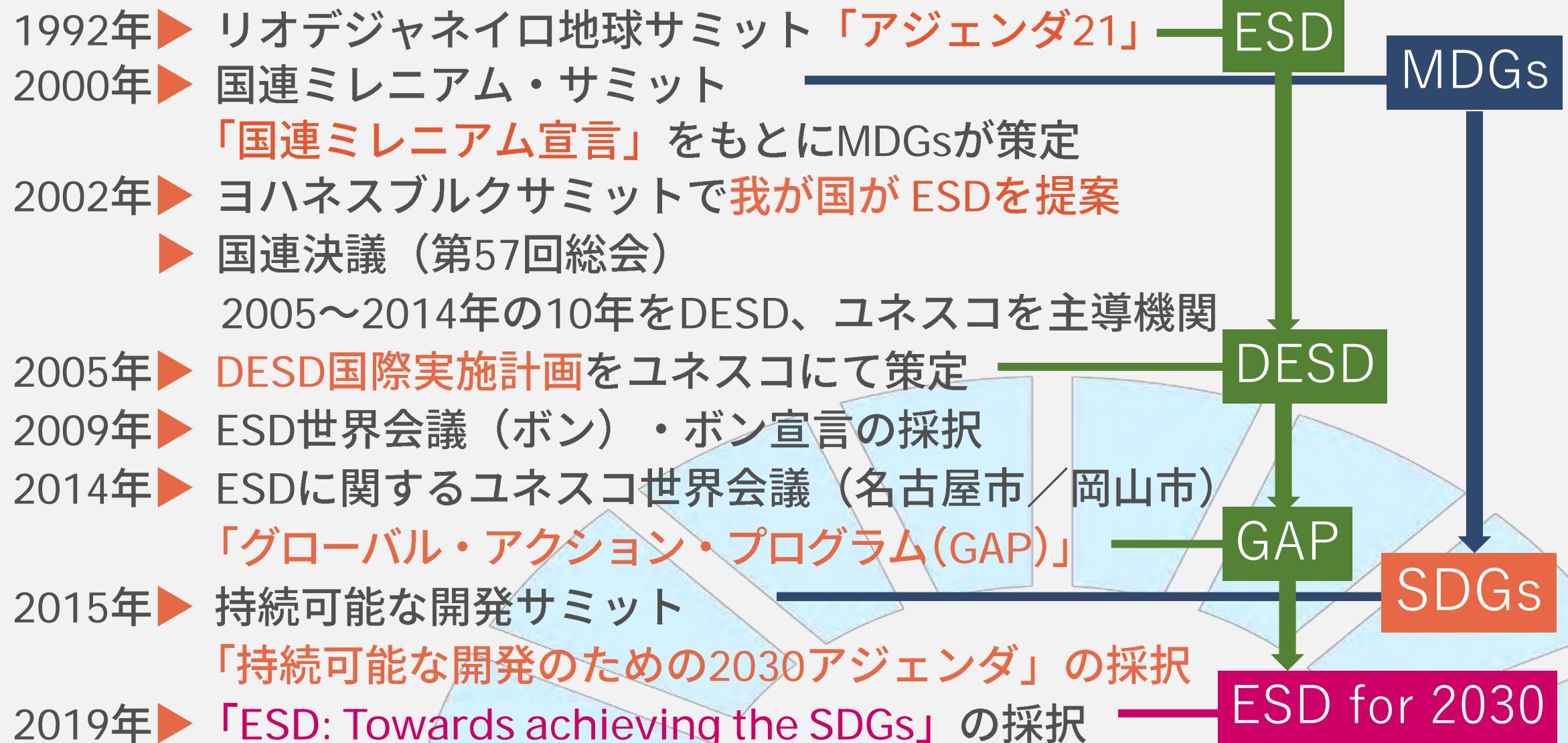
SDGs の達成に資する  
ESD for 2030

奈良教育大学 ESD・SDGsセンター  
及川 幸彦



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
17 GOALS TO TRANSFORM THE WORLD

# ESDとSDGsの策定経緯



# 持続可能な開発目標（SDGs）がめざす世界

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



“No one will be left behind”  
「誰一人取り残さない」



## MDGsとの比較

2001～2015年

**MDGs**

ミレニアム開発目標

Millennium Development Goals

8ゴール・21ターゲット  
(シンプルで明快)

途上国そのための目標

国連の専門家主導

2016～2030年

**SDGs**

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals

17ゴール・169ターゲット  
(包括的で、互いに関連)

全ての国の目標  
(=ユニバーサリティ)

国連全加盟国で交渉  
実施手段(資金・技術)



SUSTAIN  
DEVELOP  
17 GOALS

# 持続可能な開発の3つの側面

- ・持続可能な開発とは、「将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発」と定義  
(ブルントラント委員会「Our Common Future」1987年)
- ・持続可能な開発を達成するためには、**経済成長**、**社会的包摶**、**環境保護**という3つの主要要素を**調和**させることが不可欠

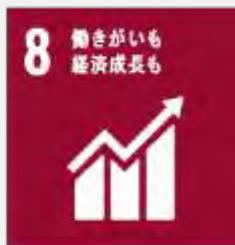


出典：国連グローバル・コミュニケーション局



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
17 GOALS TO 2030

# SDGsの達成に向けた教育



教育を通じて、持続可能な開発を促進するためには必要な知識及び技能を習得できるようにする

目標4。「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するためには必要な知識及び技能を習得できるようにする。

# これからのESDの方向性：ESD for SDGs



- ① ESDは持続可能な社会の**担い手づくり**を通じて、17すべての目標の達成に貢献するもの。
- ② ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっている。
- ③ SDGsを、ESDで目指す目標が**国際的に整理されたもの**として捉えることもできる。

出典：文部科学省「持続可能な開発のための教育(ESD)とユネスコスタイル」 ([http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/pamphlet\\_02.pdf](http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/pamphlet_02.pdf))



# SDGsの達成に資するESD：ESD for 2030

## 目標 (Goal of ESD for 2030)

- SDG 4の不可欠な要素であり、他のすべてのSDGsの達成のカギであるESDの重要性の高まりに対応して、2030年のESDの全体的な目的は、17のSDGsの達成を通じて、より公正で持続可能な世界を構築すること。
- 2030年のESDは、すべてのSDGsへのESDの貢献を強化することを提案。
- 特にSDG 4の支援に焦点を当てて－教育2030アジェンダは、人類の生存と繁栄への学習コンテンツの貢献をより重視。



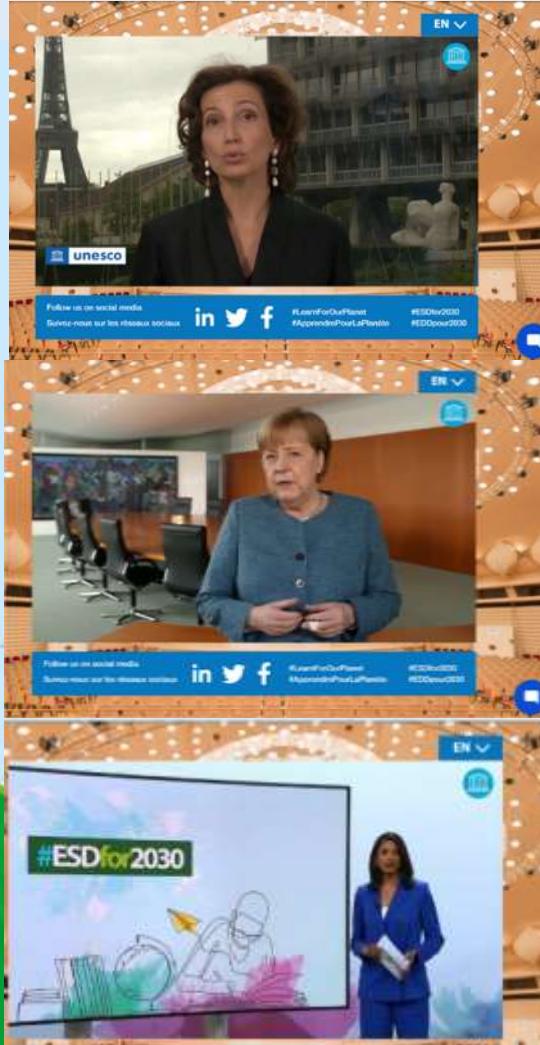
# ESD for 2030 ロードマップと実施施策

持続可能な開発のための教育(ESD) : SDGs 実現に向けて(ESD for 2030)(2020年~2030年)

- 目標 : ESD の強化と SDGs の 17 の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指す。
- 特徴 : ①SDGs の 17 全ての目標実現に向けた教育の役割を強調  
②持続可能な開発に向けた大きな変革への重点化  
③ユネスコ加盟国によるリーダーシップへの重点化
- 優先行動分野 : GAP の優先行動分野を継承しつつ、これまでの教訓を踏まえて一部調整。
- 実施のためのメカニズム :
  - ①国レベルでの ESD for 2030 の実施 (国内イニシアチブの設定) ※
  - ②パートナーシップとコラボレーション
  - ③行動を促すための普及活動      ④新たな課題や傾向の追跡
  - ⑤資源の活用                          ⑥進捗モニタリング

※ 5つの優先行動分野のうち 1 つ以上に取り組むこと、5つの優先行動分野で活動する主要なステークホルダー等との多分野間に渡る提携と協力を促進すること、SDGs に関する広報・アドボカシー活動を強化すること 等。

# ESDユネスコ世界会議（ベルリン）の概要



## 1. 概要

- 5月17日～19日ユネスコとドイツ政府の主催で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催（オンライン）。  
(161か国から閣僚級70名を含む約2,800人が参加)
- 同会議は、SDGs達成に向けて、我が国が主導してきたESDの新たな国際枠組み「ESD for 2030」の開始に当たり開催されたもの。
- 17日の閣僚級パネルディスカッションには、ESD提唱国として、日本から萩生田文部科学大臣が出席。  
我が国のESDの取組として、
  - ①ESDの理念を公式に学校教育の中に位置付けていること、
  - ②関係省庁が連携しオールジャパンでESDを推進していること、
  - ③学校と地域が連携し地域課題の解決に繋げていること、などを紹介。



ESDに関する議論を行う萩生田大臣とモロッコのハスナ王女

## 2. 成果文書

- 会議最終日の19日に、本会議の成果文書として、「ESDに関するベルリン宣言」が採択。

### <「ESDに関するベルリン宣言の概要」>

- ・2030年に向けて、SDGsの全ての目標達成の鍵であるESDを推進していくことを確認
- ・ユネスコスクールなどユネスコが有するネットワークや資源の活用
- ・第26回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP26)などの重要な契機を見据えて、本宣言の内容を実現



各国大臣とのパネルディスカッション

#ESDfor2030

# ESDユネスコ世界会議のプログラム

2021年5月17日(月)(会議1日目)		2021年5月18日(火)(会議2日目)		2021年5月19日(水)(会議3日目)	
(日本時間)					
19:00 - 19:30	開会及び祝辞 ※アズレーユネスコ事務局長出席	15:00 - 16:30 セッション4 ESD for 2030 実施に関する大臣級ラウンドテーブル(第2部) 16:30 - 16:45 休憩及びオンラインネットワーキング 16:45 - 18:00 セッション5 ESDを通じた地球規模課題への対応 ※5つのテーマ別分科会 5.3 Green and circular economies で環境省田代補佐登壇	16:00 - 17:15 セッション11 分科会:ESDの実践A(第2部) ※5つの優先行動分野毎の分科会 2. 学習環境の変革:OECD 田熊美保氏(モレーター)、東京大学 及川幸彦主幹研究員(パネリスト) 3. 教育者の能力構築:IICBA 横関所長(モレーター)、岡山大学 藤井浩樹教授(パネリスト) 5. 地域レベルでの活動の促進:UNU 野口扶美子氏(モレーター)、金沢大学 アイーダ・ママードゥア准教授(パネリスト)		
19:30 - 20:00	基調講演	18:00 - 18:30 休憩及びオンラインネットワーキング	17:15 - 17:45 休憩及びオンラインネットワーキング/文化パフォーマンス		
20:00 - 21:30	セッション1 本会合:地球危機の時代に必要な変化の創造 ① 大臣級パネルディスカッション ※萩生田文部科学大臣登壇 ② 援助機関パネルディスカッション	18:30 - 20:00 セッション6 プレナリー-SDGsに向けた変革的行動の証言-持続可能な開発に向けた社会変化はいかにして起こるのか?	17:45 - 19:00 セッション12 分科会:ESDの実践B ※教育段階毎の分科会 2. ESD in secondary education:上智大学 杉村美紀教授		
21:30 - 22:00	休憩及びオンラインネットワーキング/文化パフォーマンス	20:00 - 21:00 休憩及びオンラインネットワーキング セッション7 SDGsのための教育マーケットプレイス(第2部)	19:00 - 20:00 セッション13 SDGsのための教育マーケットプレイス(第3部)		
22:00 - 24:30	セッション2 ESD for 2030 実施に関する大臣級ラウンドテーブル(第1部)	22:15 - 22:45 休憩及びオンラインネットワーキング/文化パフォーマンス 22:45 - 24:00 セッション9 分科会:ESDの実践A(第1部) ※5つの優先行動分野毎の分科会 2. 学習環境の変革:OECD 田熊美保氏(モレーター)、日本人高校教員(Education International 推薦)(パネリスト) 3. 教育者の能力構築:IICBA 横関祐見子所長(モレーター)	20:00 - 21:00 閉会 ベルリン宣言採択		
23:30 - 26:00	セッション3 SDGsのための教育マーケットプレイス(第1部)	24:00 - 24:15 休憩	終了後 ドイツ国内ローンチ会合		
26:00 - 27:00	ベルリンナイト:ドイツ政府主催バーチャルネットワーキング	24:15 - 25:15 セッション10 ドイツの優良事例会議			

# 日本からの発信 (ESD ユネスコ世界会議)

日本のESDの成果：3つの強み

1. ESDをナショナル・カリキュラム（学習指導要領）に組み入れ、学校教育（公教育）における組織的・計画的なESDを推進
2. 政府に「ESD関係省庁連絡会議」や「ESD円卓会議」を設置し、マルチステークホルダーとの連携のもと、オールジャパンでESDを推進
3. 各地域における課題解決と地域創生を目指して、地域に根差し、地域の文脈に即したESDを推進  
(→Local SDGs)

日本のESDの主な施策：

- 国のESD推進のイニシアチブを強化するため新ESD国内実施計画(ESD for 2030国内実施計画)を策定
- 学校教育でのESDのより一層の推進を図るため、「ESD推進の手引」を改訂
- 東日本大震災等の教訓や気候変動による災害の多発化・甚大化を踏まえ、日本における防災・減災へのESDの貢献を発信

# ベルリン宣言（前文）

- ◆ 我々は、世界が直面している劇的で相互に関連する諸課題、とりわけ、地球上の生命を脅かす**気候危機、生物多様性の大量喪失、公害、世界的感染症、極度の貧困及び不平等、武力紛争**、並びにその他の環境・社会・経済的危機に対応するため、緊急行動が必要であることを確信している。こうした課題の緊急性は新型コロナウイルス感染症の世界的大流行によって増幅しており、我々が互いや自然との間のより公正かつ包摂的で思いやりのある平和的な関係に基づく持続可能な開発に向けた道に進めるために、根本的な変容が必要であると考える。
- ◆ 我々は、**教育は、ものの考え方や世界観に好ましい変化をもたらす強力な手段**であり、開発の軌道が地球を犠牲にして経済成長のみを志向するものではなく、地球システムの限界の範囲内でのあらゆる者のウェルビーイングを志向するものであることを保証しながら、**経済、社会及び環境の持続可能な開発のあらゆる側面の融合**を支えることができると確信している。
- ◆ 我々は、SDG4.7に根差し、17のSDGs全ての達成を可能にする持続可能な開発のための教育(ESD)は、**全ての人**に持続可能な開発への変化の担い手になるための知識、技能、価値及び態度をもたらす、必要とされる変容の礎であると確信している。ESDは、学習者が、批判的思考や協調・課題解決能力、複雑さやリスクへの対応力、レジリエンスの強化、体系的かつ創造的に思考する力といった認知的能力及び非認知的能力を培うことを可能にし、市民として責任ある行動を取る力を与え、SDG4—教育2030に定められた質の高い教育を受ける権利を実現させる。我々は、ESDは、**自然の他、人権、民主主義、法の支配、不差別、公正及びジェンダー平等の尊重**に基づき、これらを推進しなければならないと考える。さらに、ESDは、異文化理解、文化多様性、平和と非暴力の文化、包摂性、責任ある行動的なグローバル市民の概念を推進すべきである。
- ◆ 我々は、政策、学習環境の変革、教育者の能力開発、ユースのエンパワーメント、地域レベルでの活動といった領域においてESDに関する行動を動員するための次の10年の指針となる文書として、新たな「ESD for 2030」の枠組み及びその実施のためのロードマップを歓迎する。（文部科学省仮訳）

# ベルリン宣言（我々の約束）

一部抜粋

- a) 我々の教育システムのあらゆる段階において、ESDが環境及び気候行動をカリキュラムの中核要素として備えたその基本要素であることを保証する一方、持続可能な開発のあらゆる側面の相互関連性を認識するESDに対する全体的な視点を維持する。
- b) 全ての個人が持続可能な開発のための生涯学習の機会を得られるように、幼児教育から高等教育及び技術教育を含む成人教育まで、あらゆる段階の教育訓練並びにノンフォーマル教育及びインフォーマル教育にESDを組み込む。
- e) 学校が生きた実験室となる時、民主的参加を通じて持続可能な開発に有意義に参加するようになることを認識して機関包摂型アプローチを推進し、学習者が生き方を学び、学んだように生きることができるようとする。
- j) 緊急時教育にESDを組み込んだ革新的ESD政策を推進することにより、包摂的アプローチを通じて、障害を持つ人や避難民並びに紛争や危機及び自然災害による影響を受けた人々を含む、社会から取り残された人々を優先する。
- k) 知識や技能へのアクセスにおいてジェンダー平等及び不差別を重視し、持続可能性の課題及び潜在的解決策のより深く総体的な理解を可能にするESDにおけるジェンダー主流化を確実なものとする。
- l) 貧困、特に極度の貧困に立ち向かうためにESDを結集し、（中略）学習者に対し持続可能な生活に対する個人及び社会の要求を満たすための適切な資質・能力を付与して、人間の尊厳及び人間らしく暮らす権利を保証する。
- m) （前略）教育省庁及び環境省庁の協力強化を核に非政府組織、学術界、産業界、ユースなど、他の全ての関連ステークホルダー・グループとの協力も強化して、政府全体でのアプローチを確保する。
- n) 世界、地域及び国レベルにおいて、（中略）様々なステークホルダー・グループ間のネットワークを強化することで、各取組が相互支援的かつ補完的となるようにし、ESDの構造的な主流化を支援する。

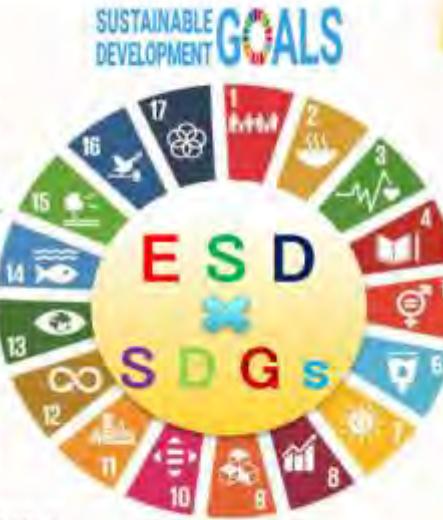


## 第2期ESD国内実施計画 ~ SDGs達成のための教育の推進 ~

令和3年5月  
文部科学省・環境省

### 第2期ESD国内実施計画

- オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、世界のESDをリードしていくために、関係省庁が連携し、ESD国内実施計画を策定。
- 次期計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化。ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成。
- ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込む方策や、「ESD for 2030」に示された5つの優先分野ごとに国内の各ステークホルダーが実施する取組を記載（具体的には以下のとおり）。



### 経緯

- ESD（持続可能な開発のための教育）は、2002年に我が国が初めて提唱。その後、ユネスコを主導機関として国際的に推進。
- 2014年、ESD世界会議を国内（愛知県・名古屋市/岡山市）において開催。
- 2015年、国連においてSDGsが採択。
- SDGsの全てのゴールの実現への貢献により、公正で持続可能な世界を目指す「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが国連総会において採択。
- 2021年5月、ESD世界会議をキックオフとして「ESD for 2030」が本格始動。

### 1. ESDを実践するために多様なステークホルダーを巻き込む

- 政府は「ユネスコ未来共創プラットフォーム」や「ESD推進ネットワーク」等を活用し、自治体、NGO/NPO、企業、研究・教育機関等をつなぐ重層的なネットワークを強化。
- 国内のみならず国際的にも情報発信を強化し、連携を図る。

### 2. ステークホルダーごとの具体的な取組を5つの優先行動分野別に記載



#### 1. 政策の推進

- ・SDGs関連政策へのESDの反映
- ・教育政策へのESDの位置付け
- ・地球規模課題に係る施策におけるESDの実施等について記載。



#### 2. 学習環境の変革

- ・学習指導要領に基づくESDの実施
- ・ICTを通じた教育環境の充実
- ・機関包括型プロモーションの推進に向けたネットワークの形成・強化等について記載。



#### 3. 教育者の能力構築

- ・教員等に対する研修等
- ・ESD推進の手引きの作成・活用
- ・各機関においてESDを実践する者の育成等について記載。



#### 4. ユースのエンパワーメントと参加の奨励

- ・ユース同士のコミュニティづくり
- ・国際的な議論にユースが参加できる環境づくり
- ・青少年の交流の推進等について記載。



#### 5. 地域レベルでの活動の促進

- ・ESDによるローカルSDGsの推進
- ・全国的なESD支援のためのネットワーク機能の発展等について記載。

# ESD for 2030国内実施計画のポイント

## ◆ 基本的考え方

1. SDGs 達成へのコミットメント
2. ステークホルダー間のパートナーシップの促進
3. 優先行動分野の推進
4. 国際社会における ESD 推進の先導的役割

## 【優先行動分野】

- ① ESD の政策への取り込み
- ② 機関包括型アプローチの実施
- ③ ESD を実践する教育者の育成
- ④ 持続可能な開発のための変革を進める若者の参加の支援
- ⑤ ESD を通じた持続可能な地域づくりの促進

→ 優先行動分野に関する主なステークホルダーの明記

→ 優先行動分野間のステークホルダーの連携の促進



# 「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」 (令和3年5月改訂版)

出典：文部科学省



## この手引について

- 学校現場でESDを広めるには、実施する教員や教務担当が具体的なカリキュラムの組み立てや地域との関係づくりを理解することが必須。こうした手法をステップバイステップで解説する手引きを作成。教員向け研修等で広く活用するもの。
- タイミングとしては、昨年度からESDの理念を盛り込んだ改訂学習指導要領が段階的に実施。国際的にも2021年5月に開催されたESD世界会議をキックオフとして、「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが本格始動。
- こうした学習指導要領の改訂や国際的な動向等も踏まえて、令和3年5月に「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」を改訂。

手引はこちら

持続可能な開発のための教育(ESD)  
推進の手引

当面の改定予定期  
平成30年2月改定  
平成31年3月改定  
平成32年3月改定予定期  
日本における内閣官房

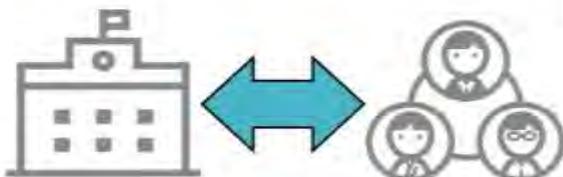
## 改訂のポイント

- ESD実践のポイントとして、ESD実践のためのカリキュラム・デザインや、学校内外での連携方法の促進について、内容を充実。
- 各学校等においてESDの実践が進むよう、具体的な取組事例の記載を充実。

➡ 学校と多様なステークホルダーが連携しながら、学校教育におけるESDの実践が進むよう、各学校を中心に活用いただく。

## 主な活用先

各小・中・高等学校  
大学や社会教育機関等の多様なステークホルダー 等



# SDGsへの多角的・連関的アプローチ

目標1：あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



目標15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



目標2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



目標7：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



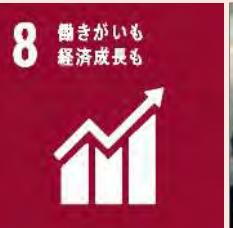
目標14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



目標4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



目標8：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する



目標13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



目標12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する



目標11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする



# 持続可能な社会の構築のプロセス



# ESD/SDGsのさらなる進展をめざして

奈良教育大学  
奈良教育大学は持続可能な社会の実現を目指してSDGsを実践しています。

行動を促す 創造に向けた 持続可能な社会

SDGsの目標達成年まで残り8年、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)報告2021」によると、新型コロナウイルス感染症により、取り組みの停滞や状況悪化が見られます。また、ロシアのウクライナ侵攻による世界の平和や安全保障は大きく揺らぎています。このような状況の下、奈良国立大学機構・奈良教育大学では、SDGsの達成に資するESDのさらなる推進に貢献する「シゴナルセンター」を設立し、「奈良教育大学ESD・SDGsセンター」を設立しました。この度、本センター設立を記念し、国際連合事務総長特別補佐(元国連大使)の高須幸雄氏を講師にお迎えして、ESD・SDGsに関する知見を深め、次世代を育むため、そして、持続可能な社会の創造に向けた行動を促すことを目的に、キックオフイベントを開催します。

令和4年 6月26日(日)13:00~16:30 会場:奈良教育大学講堂(ハイブリッド開催)、参加費無料

対象: ESD・SDGsに取り組む教職員や研究者、NGO・NPOや企業関係者、一般市民、学生等

概要: 設立セレモニー  
学長挨拶 宮下俊也 氏 国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学 学長  
祝辞 岡村直子 氏 文部科学省国際統括官・日本ユネスコ国内委員会事務総長  
センター設立趣旨説明 中澤静男 氏 奈良教育大学ESD・SDGsセンター長  
SDGsがめざす世界  
～持続可能な社会と人間の安全保障～  
講師: 高須幸雄 氏 国連事務総長特別顧問(元国連大使)  
SDGsと教育:持続可能な社会を実現するために求められる力とは  
○シンポジスト 高須幸雄 氏 国連事務総長特別顧問(元国連大使)  
柳裕之 氏 国立大学法人奈良国立大学機構理事長  
宮下俊也 氏 国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学 学長  
○モデレーター 及川幸彦 氏 奈良教育大学准教授・持続可能な開発のための教育(ESD)円卓会議議長  
問合せ: 奈良教育大学 教育研究支援課 ESD 事務担当  
TEL: 0742-27-9367 / FAX: 0742-27-9147  
E-mail: k-soumu@nara-edu.ac.jp  
申込: オンラインフォームからお申し込みください。  
<https://forms.office.com/r/ERnQjNchtQ>  
QRコード  
主催: 奈良教育大学 ESD・SDGsセンター 後援: 日本ユネスコ国内委員会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、ESD活動支援センター

## 【奈良教育大学ESD・SDGsセンターキックオフイベント&シンポジウム】

- ▶主催 奈良教育大学 同ESD・SDGsセンター
- ▶後援 日本ユネスコ国内委員会、日本ユネスコ協会連盟、ESD活動支援センター
- ▶対象 ESDに関心のある教職員、研究者、NPO/NGO・企業関係者、一般市民、学生等
- ▶日時・会場 6月26日(日) 13:00~16:30 奈良教育大学講堂(ハイブリッド)
- ▶プログラム
- (1) ESD・SDGsセンター設立セレモニー
- ①学長挨拶 宮下俊也 氏 国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学 学長  
②祝辞 岡村直子 氏 文部科学省国際統括官・日本ユネスコ国内委員会事務総長  
③趣旨説明 中澤静男 氏 奈良教育大学ESD・SDGsセンター長
- (2) 設立記念シンポジウム
- ①シンポジウム趣旨説明・挨拶 加藤久雄 氏 奈良教育大学顧問(前学長)  
②設立記念講演 「SDGsがめざす世界～持続可能な社会と人間の安全保障」  
○講師 高須幸雄 氏 国連事務総長特別顧問(元国連大使)  
③シンポジウム「SDGsと教育:持続可能な社会を実現するために求められる力とは」  
○シンポジスト • 高須幸雄 氏 国連事務総長特別顧問(元国連大使)  
• 柳裕之 氏 国立大学法人奈良国立大学機関理事長  
• 宮下俊也 氏 国立大学法人奈良国立大学機関奈良教育大学 学長  
○モデレーター • 及川幸彦 氏 持続可能な開発のための教育(ESD)円卓会議議長
- (3) 参加料 無料